

ミニカーたんけんたい 関根知未

おうちの人がない時間は…ミニカーたちが主役♪
家の中を、ミニカーたちが走り回り、探検します。

もしかしたら、あなたがいない時には、ミニカーたちが自由に室内を走っているのかも…？
こどもたちが大好き！ミニカーの絵本。

パンダのパクパク きせつのごはん ももろ

パクパクは、とってもくいしんぼうのパンダ。料理して食べるのが大好き。そんなパクパクのまわりには、動物の友だちがいっぱい。きせつのおいしいものを持ってきてくれたり、とりに行こうとさそったり…。そうきたら、パクパクのうでのみせどころ。楽しくクッキングして、みんないっしょに、いただきま〜す！ 月ごとのごちそうが登場する絵本。巻末には、お菓子作家のメリリルさんによる「ごはん」のレシピを掲載！

せんたくかごの ないしょのはなし こがしわかおり

せんたくのお手伝いをしていたサボン。くつ下を探して、せんたくかごをのぞいていたら、つむじ風が吹いて飛ばされてしまった。気がつくやうと、せんたくかごをかぶっていたサボン。かごのあみ目からいつのまにか抜け出して見えてきたのは、楽しそうにはたらく小さな者たち…。せんたくかごが大好きな子が、不思議な世界を訪れる絵本童話。見えない優しさに気づくきっかけになるお話です。

車いすでジャンプ! モカ・R/中井はるの

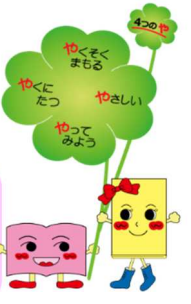
エミーは、生まれつき脊椎に障がいがあり、車いすで学校生活を送る12歳の女の子。車いすで宙に舞い、大ジャンプをキメるモトクロス選手にあこがれて、放課後は自宅の庭にあるパパ手作りのジャンプ台で練習を重ねている。

しかしエミーが乗っている「車いす」は日常生活を送るためのもので、大ジャンプをものにするためには、モトクロス用の高性能な車いすが必要。

そこで、親友のアレと一緒に、二人それぞれの夢を叶えるため、手作りのバッグや拾い集めてきた木の実や植物を売るオンラインショップを運営し、売上は上々。特にバッグは、車いす使用者目線の便利グッズとしてファンも獲得し、コツコツと着実に、夢に向かってつき進んでいた。そんなある日、学校でエミーが「転倒」した。学校の支援の対応はエミーの望まぬ方向へ進んでいき、友だちや家族との関係までギクシャクしていく……。

はまでら4つのや図書館

2024.4月の新着本より



そらまめくんの こしょこしょこしょ なかやみわ

そらまめくんとおまめのなかまたちと一緒に、せなかを、おなかを、こしょ こしょ こしょ…！ 思わず笑顔になるこしょこしょ遊びは、0歳はもちろん、文字が読めるようになってきた幼児でも、繰り返し繰り返し楽しめます。読みながら、兄弟親子で盛りあがれること間違いなし！ 豊かなスキンシップにつながる絵本です。

100ぴきかぞく ゆうえんちへいく 古沢たつお

ねこの家族が、みんなで遊園地へお出かけ。おやつを食べたり、観覧車に乗ったり。この子は何をしているのかな？ 1匹いっぴき違った個性をもつ猫たち。100ぴきの中からお気に入りを探すのも楽しい「100ぴきかぞく」第2弾！

お風呂のぼうず 乾栄里子/石井聖岳

ふーちゃんがお風呂に入ります。するとやってくるのは、赤いタオルのたごぼうず。青いタオルの海ぼうず。それからそれから…

お風呂が大好きな子も苦手な子も、お風呂の時間が待ち遠しくなる絵本です。

からだおたすけ 食べ物事典 こんなときなに食べる？ 牧野直子/坂井建雄

「足が速くなりたい」「頭がよくになりたい」「風邪を治したい」、そんなときに、からだを助けてくれる食べ物は何？

栄養素キャラクターといっしょに、必要な栄養素とその栄養素がふくまれた食べ物、その食べ物をおいしく食べられる料理を知ろう。楽しいコラムやクイズもたくさん！ 食べ物や栄養素だけでなく、からだのしくみについても学べる！

始まりの木 夏川草介

藤崎千佳は、東京にある国立東々大学の学生である。所属は文学部で、専攻は民俗学。指導教官である古屋神寺郎は、足が悪いことをものともせず日本国中にフィールドワークへ出かける、偏屈で優秀な民俗学者だ。古屋は北から南へ練り歩くフィールドワークを通して、“現代日本人の失ったもの”を藤崎に問いかけてゆく。学問と旅をめぐる、不思議な冒険が、始まる。

“藤崎、旅の準備をしまえ”

田舎のポルシェ 篠田節子

実家の農家を飛び出した女性
リタイヤした元企業戦士
夫に先立たれた介護士——
それぞれ秘めた思いを抱いて
トラブル連発のロングドライブへ

【収録作】
「田舎のポルシェ」…実家の米を引き取るため大型台風が迫る中、強面ヤンキーの運転する軽トラで東京を目指す女性。波乱だらけの強行軍。
「ポルボ」…不本意な形で大企業勤務の肩書を失った二人の男性が意気投合、廃車寸前のポルボで北海道へ旅行することになったが——。
「ロケバスアリア」…「憧れの歌手が歌った会場に立ちたい」。女性の願いを叶えるため、コロナで一変した日本をロケバスが走る。

それでも会社は辞めません 和田裕美

人材派遣会社で働く初芽は、営業部での成績がふるわず上司から叱責される日々。ついに、会社中の使えない社員が集められたという噂のA I推進部へ異動になった。パワハラ、セクハラの横行する理不尽に耐えるのは、生産性の低い無能な社員だから？ 「逃げたらい」と「逃げ場なんてない」の狭間で揺れ動く初芽だが——。輝かない人々に当たる心温まるスポットライトは、これまでと同じ世界を新しい見え方へと変えてくれる。ビジネスの世界に精通した著者が従来と真逆の価値観で描く、決してかっこよくないヒーローたちの物語。

※版元ドットコム、Amazonより引用しています

あとを継ぐひと 田中兆子

父親から下町の駄菓子工場を継いだ素人の娘。老舗旅館の女将を継ぎたい、トランスジェンダーの息子。障害者を雇用する会社で、仕事に、人間関係に悩む新入社員。祖父の農場を継ぐという息子を心配する父親。なにかを「継ぐ」にはトラブルがつきもの。それでも前の世代から何かを引き継ぎ、次へ伝えようともがく人々を描く、連作短編集。

週末は、おくのほそ道。 大橋崇行

高校教員的美穂は30歳。仕事に追われ疲労困憊の日々、恋人との関係もうまくいっていない。そんなある日、高校時代に「俳句甲子園」に出場し奮闘した友人・空と再会した美穂は、昔から憧れていた松尾芭蕉の「おくのほそ道」を旅しようと提案する。週末ごとに、白河、松島、平泉…と芭蕉達が辿った風光明媚な地を女ふたりで旅しながら、日常を離れ心を休めていく美穂。そして旅に同行してくれた空には、この旅の中で「会いたい人」がいるようである。古典から現代への歴史を辿りながら、生きる立場の違う人間の再生を描いた物語。

彩無き世界のノスタルジア 行成薫

過去を捨て、裏社会で生きる「交渉屋」のキダ。キダに仕事を発注、交渉時に使用する銃器や爆発物を調達するなど、表向きの輸入代行業とは別に裏稼業を営む会社「川端洋行」に、ある日両親を殺されたという少女・彩葉（いろは）が訪れる。その子の世話を押し付けられたキダは彩葉を匿うことになり、奇妙な共同生活がスタートする。彩葉と暮らすうち、孤独に暮らしていたキダの世界に鮮やかな色が満ちていく。しかし、その裏で蠢く影が、次第にキダを飲み込もうとしていた。やがて明らかになる彩葉の真実とは——。
切なく忘れがたい「企み」の物語。

『名も無き世界のエンドロール』の結末から五年後の物語。

ダブルファザーズ 白川ちさと

生まれた時に母親を亡くし、父子家庭で育ってきた沙織。彼女には、二人の父親がいる。一人は眼鏡をかけて商社で働いている裕二お父さん。もう一人はイラストレーターで家事が得意な、あっちゃんパパ。自分の家はちょっと変わっているけれど、ごく普通の家族として生活している——そう思ってきたけれど、時に奇異のまなざしを向けられたり、陰口を叩かれたりもして……。どうして自分には父親が二人もいるのか。自分の本当の父親は誰なのか。これは、沙織が自分のルーツを知る物語。